

編集後記

本号では、先端的かつ臨床的意義の高い4本の依頼原稿をご寄稿いただきました。まず巻頭言では、高橋英夫先生が、我が国の創薬研究における課題と展望について論じられ、アカデミアによる基礎研究成果の社会実装や、バックキャスト思考に基づく創薬エコシステム構築の重要性をご指摘されています。創薬モダリティが多様化する現代において、大学から臨床開発へと円滑に接続する仕組みづくりは、今後ますます求められると感じます。

西郷和真先生の総説では、片頭痛診療の背景に潜む遺伝性神経難病に焦点が当てられています。家族性片麻痺性片頭痛（FHM）に加え、CADASILなどの遺伝性脳小血管病やチャネル病についても整理され、遺伝学的検査の適応と遺伝カウンセリングの意義が丁寧に解説されています。一般臨床医にとっても重要な視点であり、遺伝子医療が身近になりつつある今、示唆に富む内容です。

安松隆治先生による「最新のがん」では、中咽頭癌、とくにHPV関連癌の診断と治療の進歩が概説されています。低侵襲手術、強度変調放射線治療（IMRT）、免疫チェックポイント阻害薬、さらにはBNCTや光免疫療法など、選択肢が増える一方、正確なバイオマーカー評価や予後リスク層別化がより重要になっていることが示されています。治療成績とQOLの両立は、今後の大きな課題であると感じます。

また、稲村昇先生の「研修医のための教育講座」では、小児の心雑音の鑑別ポイントが、聴診器の使い分け、雑音の時相や最強部位の見極めなど、実践的観点からわかりやすく整理されています。無害性雑音を適切に除外し、病的所見を見逃さないための視点は、初期研修医のみならず多くの臨床医に役立つ内容となっています。

医学は細分化が進みつつありますが、同時に分野横断的な視点も必要とされています。本号の内容は、基礎から臨床、遺伝子から社会実装まで、多層的な医療の広がりを感じさせます。ご多忙の中、ご執筆いただきました先生方に深く御礼申し上げます。

2025年12月

近畿大学医学雑誌 編集委員長
大塚篤司

今年度、御多忙の中 近大医誌と Acta Med Kindai Univ に投稿された論文を査読して頂いた先生方に感謝の意を表して下記にお名前を列記致します。

有馬 秀二（腎臓内科）
垣見 和宏（免疫学）
加藤 寛章（上部消化管外科）
亀井 敬子（肝胆膵外科）
小谷 真介（心臓血管外科）
坂井 和子（ゲノム生物学）

坂口 元一（心臓血管外科）
鈴木 智詞（奈良病院 循環器内科）
東儀 圭則（奈良病院 循環器内科）
二川 晃一（奈良病院 麻酔科）
米阪 仁雄（腫瘍内科）

近畿大学医学会役員

会 長	西 尾 和 人	幹 事 (編集)	大 塚 篤 司
副 会 長	東 田 有 智	監 事	重 吉 康 史
幹 事 (庶務)	松 村 謙 臣	評 議 員	医学部主任教授
幹 事 (会計)	永 井 義 隆		

編 集 委 員 会

大 塚 篤 司 (編集長)
伊藤 彰彦 杉本 圭相 上 裕 俊法 中川 和彦
(教育講座)
西尾 和人
(シリーズ最新のがん)

「原稿作成の手引き」は各巻の第1号にあります。
また必要な方は編集部宛お申込み下さい。

近畿大学医学雑誌

第50巻 第3・4号

令和7年12月4日 印刷
令和7年12月19日 発行

発 行 人 西 尾 和 人

編 集 人 大 塚 篤 司

発 行 所 近 畿 大 学 医 学 会

〒590-0197 大阪府堺市南区三原台1丁目14番1号
近畿大学医学部内

印 刷 AP リ ュ ー プ ン 合同会社

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・
出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。